

戦争や空襲の体験を受け継ぐために

現在、戦争を体験した世代は日本の全人口の1割を切っています。戦争や空襲のリアルな現実を知るためには、私たちが自分自身の手で調べ、学び、体験や知識を共有していくことが重要になってきます。このセンターは、戦争体験の継承を願うすべてのみなさんにとっての、学びや交流の中心地(センター)でありたいと思います。どうぞセンターをご活用ください。

館長 吉田裕

センターの成り立ちと歩み

当センターは、民間の学術研究機関である公益財団法人政治経済研究所の附属博物館です。「東京空襲を記録する会」は、1970年代より空襲・戦災に関わる資料や被災品などを広く収集し、東京都に戦災資料館建設を求めてきました。しかし、1999年、都の「平和祈念館」(仮称)建設計画は凍結されてしまいました。

集めてきた資料をまもり、あるいは語り継ぎ、学び合うための施設を設立するため、「記録する会」と政治経済研究所は民間募金を呼びかけ、4000名を超える方々のご協力をいただきました。そして2002年3月9日、当センターが開館し、「記録する会」発起人のひとりである早乙女勝元が館長に就任しました。その後、再度募金をいただき、2007年に増築を実現しました。

2019年、新館長に歴史学者の吉田裕、名誉館長に早乙女勝元が就任しました。翌年、三たび多くの方に募金へのご協力をいただき、リニューアルしました。

当センターの目的は、東京大空襲をはじめとする空襲や戦争による民間人の被害を明らかにし、伝えていくことにあります。それを通じて、二度と戦争の惨禍を繰り返さず、平和な世界を築くことに貢献したいと願っています。

維持会費・維持募金のお願い

民立民営の当センターは、多くのみなさまからの会費・募金によって維持・運営され、常設展・特別展、資料の整理・保存、研究活動、出版・編集、各種イベントなどの事業を行なっております。

維持会員のみなさまには年2回発行の機関紙をお届けするほか、入館料も無料となります。

維持会費・維持募金へのご協力をお願いいたします。

☆ 郵便振替口座:00170-6-123225

☆ 個人:1口 2,000円/団体:1口 10,000円

〈2階 展示室〉

東京の空襲で被災した人びとの体験や想いに焦点を当てた展示空間です。4つのコーナーに分けて、空襲前～空襲～空襲後までを、おおむね時系列で展示しています。

体験記やいくつかの資料にQRコードを付けています。携帯端末などで読み込むと、関連する証言や動画を見たり、聞いたりすることができます。

3 証言映像の部屋

空襲を体験された方のお話を記録した映像などを見ることが出来ます。見学のご感想をお書きいただける感想ノートもあります。

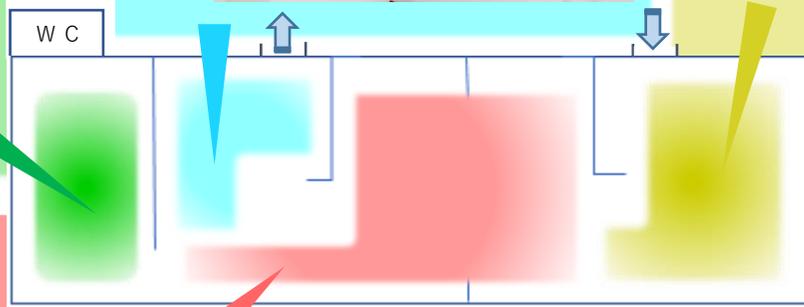
4 空襲後のあゆみ

空襲後の仮埋葬、戦災孤児や食糧問題、補償運動や空襲記録運動、戦災資料センターのできるまでなど、戦後も続く空襲の被害や問題を展示しています。



1 戦時下の日常

関東大震災から復興した東京の街は、次第に戦時体制に組み込まれていきました。当時のくらしや学校の様子、防空に関するモノの展示のほか、灯火管制下の部屋を再現しました。



2 空襲の実相

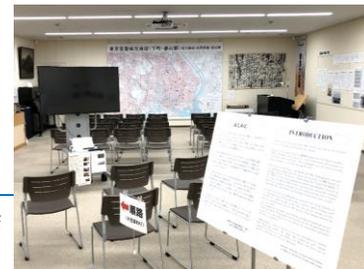
空襲に使用された焼夷弾の実物と模型があり、重さも実感できます。中央には、『東京大空襲・戦災誌』から選んだ体験記、すみだ郷土文化資料館の体験画、夜が明けたあとの惨状の写真や被災品を展示し、それぞれの3月10日の空襲体験を描きだします。



〈1階 映像・講話室〉

映像の上映やイベントの会場としても使います。また、団体見学で希望があれば、空襲を体験された方のお話を聞くことができる場所です。空襲の全体像が分かるように、大きな都心部の被災地図や現代までの空襲の年表が展示されています。

入口すぐの受付ロビーの本棚には、空襲に関する書籍や絵本が置かれ、自由に調べ物をしたり、本を読んだりすることができます。



東京・日本と空襲

アジア・太平洋戦争の末期、1945年3月10日。「東京大空襲」と呼ばれる、2時間半余りの空襲によって、東京の下町一帯は焼け野原となり、約10万人もの人びとが犠牲となりました。アメリカ軍による無差別爆撃でした。

戦争中、東京はおよそ100回の空襲を受け、一方、日本も満州事変以降は中国などへ空襲を行いました。空襲で多くの人びとが家財を焼かれ、傷つき、命を失いました。多くは、女性、子ども、高齢者などの民間人でした。今でも、世界では空襲がくり返されています。

〈世界の子どもの平和像と母子像〉

センターの入り口にふたつの像があります。

世界の子どもの平和像(東京)は、空襲や原爆について学んだ東京の中・高校生たちが、募金やデザインをつくり、建立にたずさわりました。

母子像は江東区に暮らす母親たちの平和への思いが込められています。



岡村光哲さん制作

※ 東京以外にもアメリカ、広島、京都など各地で世界の子どもの平和像がつくられました。



河野新さん制作

おもなイベント

- ☆ 3月10日前後 東京大空襲を語り継ぐつどい
… 空襲体験者の証言、1年の活動の振り返りなど
- ☆ 5月5日 「世界の子どもの平和像」のつどい
- ☆ 8月15日前後1週間ほど 夏休み特別企画
… 自由研究、地域や市民のみなさまとの交流の場
- ☆ 最新情報などくわしくは当センターのホームページ、Twitterでお知らせします。どうぞご覧ください。

交通案内

- ▼ JR「秋葉原駅」中央改札口を出て左の2番バス乗場から、都バス《葛西駅行き》(秋26)で35分、「北砂1丁目」下車、徒歩2分
- ▼ 東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄新宿線「住吉駅」B1出口から徒歩18分

※清洲橋通りの「岩井橋東詰め交差点」、岩井橋クリニックの隣です。



開館要項

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は原則開館し、火曜日休館) 年末年始
☆ 3月9日、10日は曜日にかかわらず開館

開館時間 10時30分～16時

入館料 一般：300円 中・高校生：200円
小学生：100円 未就学児・障がい者：無料

- ☆ 10名以上の団体の方は、事前にご連絡ください
- ☆ 車椅子用のエレベーター・トイレ・障がい者用駐車場(1台分)があります。一般の駐車場はありません

東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4

TEL 03-5857-5631 FAX 03-5683-3326

ホームページ <https://tokyo-sensai.net/>

(2020年6月 印刷)



未来へと語り継ぐ 戦争の惨禍と、平和への願い

公益財団法人 政治経済研究所 付属

東京大空襲・戦災資料センター

The Center of the Tokyo Air Raids and War Damage

館長 吉田 裕
名誉館長 早乙女勝元



現在の東京大空襲・戦災資料センター

1945年9月、江東区北砂・大島周辺(米軍撮影)